

教職教養Training動画

教育心理

講義6

発達



講師：古川聡



月刊『教員養成セミナー』2019年1月号収録

遺伝と環境

- (1) 発達は遺伝で決まる！ ゲゼルの遺伝説・成熟優位説
→ カリカック家など家系研究の成果
- (2) 発達は環境で決まる！ ワトソンの環境説・経験優位説
→ アヴェロンの野生児や発達加速現象などの実例
- (3) 発達は遺伝と環境の和だ！ シュテルンの輻輳説
- (4) 発達は環境の質が重要だ！ ジェンセンの環境閾値説
- (5) 発達はシステムの拡大だ！ ブロンフェンブレンナーの理論

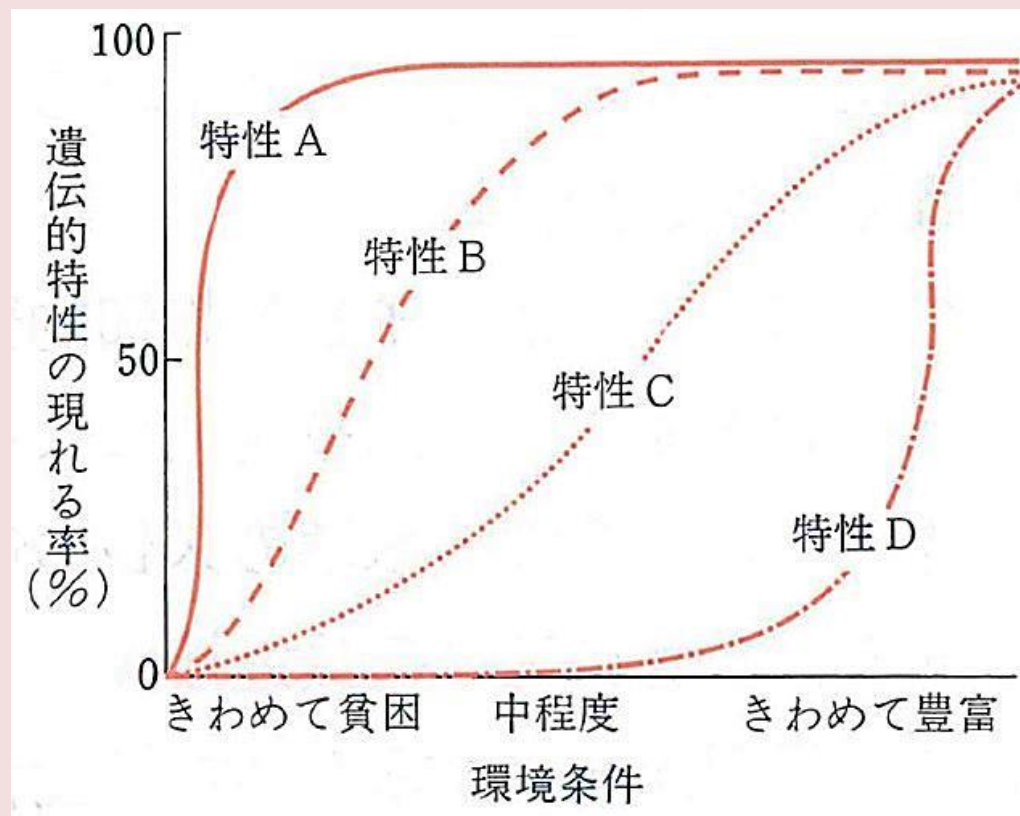


遺伝と環境：環境閾値説

ジェンセンの環境閾値説



特性ごとに発現に必要な環境の質が異なる。すなわち、環境が発現のための閾値になっている。



身体発達：人間の特性

進化すると少ない数の子どもを成熟した状態で産むようになる



ヒトは？ 産む子どもの数は減らした！ だが、

生まれた時の状態は未熟！ 進化の理論にはあわない！



ポルトマンは、このようなヒトの特異性を『生理的早産』と呼んだ
生後1年間は、本来は母体の中にいるはずで、『子宮外胎児期』という



身体発達：発達曲線

スキャモンの発達曲線

生後20年間の身体発達の過程を4つの型に区分したもの

リンパ型：リンパ腺や胸腺など

神経型：脳や脊髄など

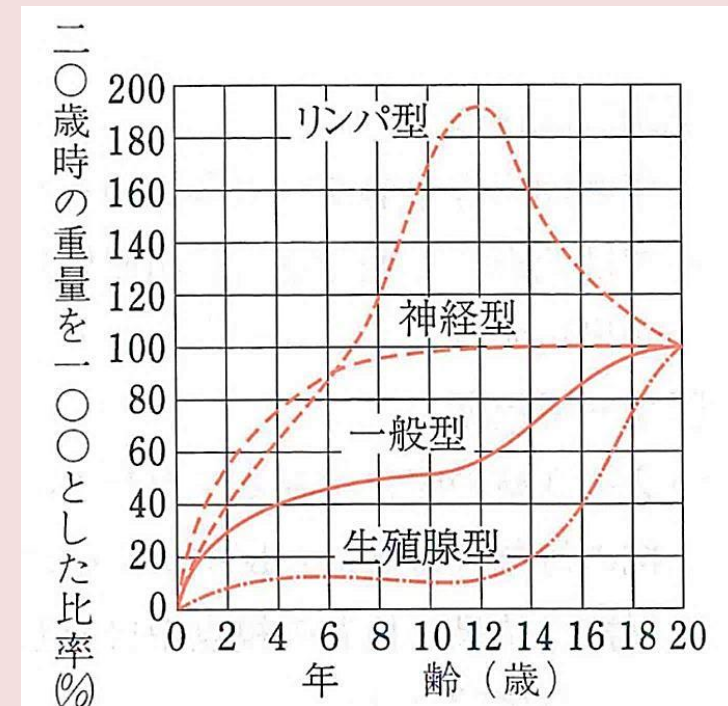
一般型：骨格や内臓など

生殖腺型：睾丸や卵巣など



第二伸長期は一般型のどの部分？

第二性徴は生殖腺型のどの部分？



自己概念の発達

乳児期：ハンドリガードによる身体の認知・名前の認識・鏡映像の認識

+

幼児期：自我の芽生えにともなう第1反抗期

+

思春期：自我の確立にともなう第2反抗期

↓

『これが自分だ！』という認識、同一性の確立へ



自己概念の発達：エリクソンとアドラー

(1) 人生の各段階で経験する心理社会的危機を指摘したのがエリクソン

乳児期 信頼 対 不信

幼児前期 自律性 対 恥と疑惑

幼児後期 自発性 (積極性) 対 罪悪感

児童期 勤勉性 対 劣等感

青年期 同一性 対 同一性拡散

成人前期 親密性 対 孤独

成人後期 世代性 (生殖性) 対 停滞

老年期 統合性 対 絶望

(2) 劣等感の克服こそが成長のエネルギーになるというのがアドラー



認知の発達

ピアジェの研究

感覚運動期 . . . 反射による外界の理解。物の永続性の理解。



前操作期 . . . 自己中心的な思考。アニミズムなどの世界観。



具体的操作期 . . 脱中心化の達成。保存概念の獲得。



形式的操作期 . . 仮説演繹などイメージによる論理的な思考。



親子関係の発達

自発的微笑



授乳してくれる人の顔の認識



母子間の信頼関係の形成 = ボウルビィのアタッチメントという概念



養育の仕方 = サイモンズによる親の養育態度の研究



安定した親子関係へ



社会性の発達

(1) 言葉の発達

クーイング → 喃語 → 初語（一語発話） → 言語の爆発期へ

|| || || ||

生後2ヶ月 4ヶ月 1歳頃 3歳頃

(2) 道徳性の発達

ピアジェ 結果論的道徳判断から動機論的道徳判断へ
他律から自律へ

コールバーグ 前慣習的水準→慣習的水準→後慣習的水準



発達障害

- (1) ADHD（注意欠陥多動性障害・注意欠如多動症）
不注意・多動性・衝動性が主症状
- (2) LD（学習障害・限局性学習症）
特定の面でのみ習得と使用に困難をともなう
- (3) ASD（自閉スペクトラム症）・PDD（広汎性発達障害）
社会性の問題・言語発達の遅れ・固執性が主症状

